

シャドーイングによる中国人日本語学習者の自己モニター能力の養成に関する研究

—アクセントを中心に—

HOW DOES SHADOWING EFFECT THE CONSTRUCTION OF SELF-MONITORING ABILITY OF CHINESE L2 LEARNERS OF JAPANESE -FOCUSING ON ACCENT-

方雨琦, 横浜国立大学
Ho Uki, Yokohama National University

1. はじめに

シャドーイングとは、聞こえてくるスピーチに対してほぼ同時に、或いは一定の間をおいてそのスピーチと同じ発話を口頭で再生する行為である（玉井、2005）。筆者は大学二年生の時、シャドーイングを練習し始めた。

日本語は一つの単語の中ではアクセント高低の山が一つしかないが、中国語では高低の山が二つ以上生じることもある。中国人日本語学習者（以下はCS）がもつこのような母語アクセントは日本語アクセントの習得に否定的な干渉を与え、CSの独特のアクセントになる傾向がある（鈴木、1984）。その原因で、最初の頃、筆者はアクセントに関する感覚は全くなかった。しかも授業で間違えたアクセントをすぐで先生に指摘されたので、一時人前で発音するのを恐れ、積極的に発言できなくなっていた。しかし、シャドーイングを何ヶ月か練習した後、自分が発音したものは正しいかどうか、自分でも判断でき、更に直せるようになった。磯村（2009）によると、この能力は「自己モニター能力」というが、この能力を獲得したことによって、筆者は自信を持つようになった。

このように日本語のアクセントに悩まされ、発話に自信を失ったCSに有効な学習方法を模索する中、シャドーイングによる自己モニター能力養成が有効なのではないかと考えた。

スィリポンパイブーン（2008）は、「自己モニター型」「リソース活用型」等4タイプの学習ストラテジーのうち、自己モニター型ストラテジーがアクセントの習得に有効であるというアンケート結果を報告した。荻原（2005）等はシャドーイングはアクセント指導に一定の効果があることを証明した。また、高橋・松崎（2007）はシャドーイングによって学習者のモニター力が活性化されると指摘した。しかし、実証的研究を通して、シャドーイングが自己モニター能力の養成に有効かどうか、更に具体的にどのように影響しているのかを検証した研究はまだない。

筆者はシャドーイングが自己モニター能力の養成に有効であるという仮説を立て、具体的にどのように影響しているかを明らかにし、更に養成できた場合、CSの自信付けにどのような影響を与えるか、これまでの研究で十分に解明されていない点に絞って考察したい。

2. データ分析

2.1 調査方法

2.1.1 調査対象

対象：中国にある大学の日本語学科 2 年生

- ① 女性 4 名、男性 1 名（計 5 名）
- ② シャドーイングをしてもらう順番によって、それぞれ A さん、 B さん、 C さん、 D さん（男性）、 E さんと名付ける。

2.1.2 調査期間

期間：2015 年 9 月 14 日－16 日

一人あたり 1 時間内で終わらせるという設定をした。

2.1.3 シャドーイングの課題文

『日本語を話そう!初級~中級編』Unit4 の section5、1~10 の会話を 72 の文節に分けた。

図 1 課題文

Unit 4	Section5	
		6.A: DVD を/買いたんだけど・・・ B: じゃー/、西新宿の/カメラ屋に/行ってみたら/? 秋葉原より/安いよ。
1.A:あの/映画/、どうだった? B:うーん/、たいした/こと/なかった。		7.A:その/カメラ/、ずいぶん/古いね。 B: そうなんだ/。 丈夫で/長持ちだよ。
2.A:昨日の/テスト/、たいした/こと/なかったね。 B: え〜/、難しかったよ。		8.A:もう/、申し込んだ? B: まだ/。 手続きが/面倒くさいんだ。
3.A:結婚すると/自由が/なくなるって/いいですが・・・ B: そうとも/限らないでしょう。		9.A:明日の/今ごろは/、北海道に/いるんです。 B: え〜/、いいな〜。
4.A:携帯電話/、変えたの? B: ええ/、こっちの/ほうが/機能が/よくて/、料金も/安いから。		10.A:あなたの/国では/、どうですか? B: うーん/、実は/、しばらく/帰って/いないので/、よく/わからないんです。
5.A:携帯電話の/番号と/メールアドレスが/変わりました。 B: えー/、じゃあ/、教えて。		

2.1.4 実施手順

- 意味理解：課題文を見てもらう。

- 音読 1
- シャドーイング
- 音読 2
- シャドーイングをする時、何を考えていたのかを教えてください。
- 音読 2 を聞かせて、間違えた気づいたものを書いてください。
- シャドーイング
- 指導を行う。(アクセント、イントネーション、単音などが間違っているのに、気づいていないところを線で引いてあげる。)
- シャドーイング
- 音読 3
- フォロアップインタビュー

2.2 シャドーイングがアクセントに与える影響

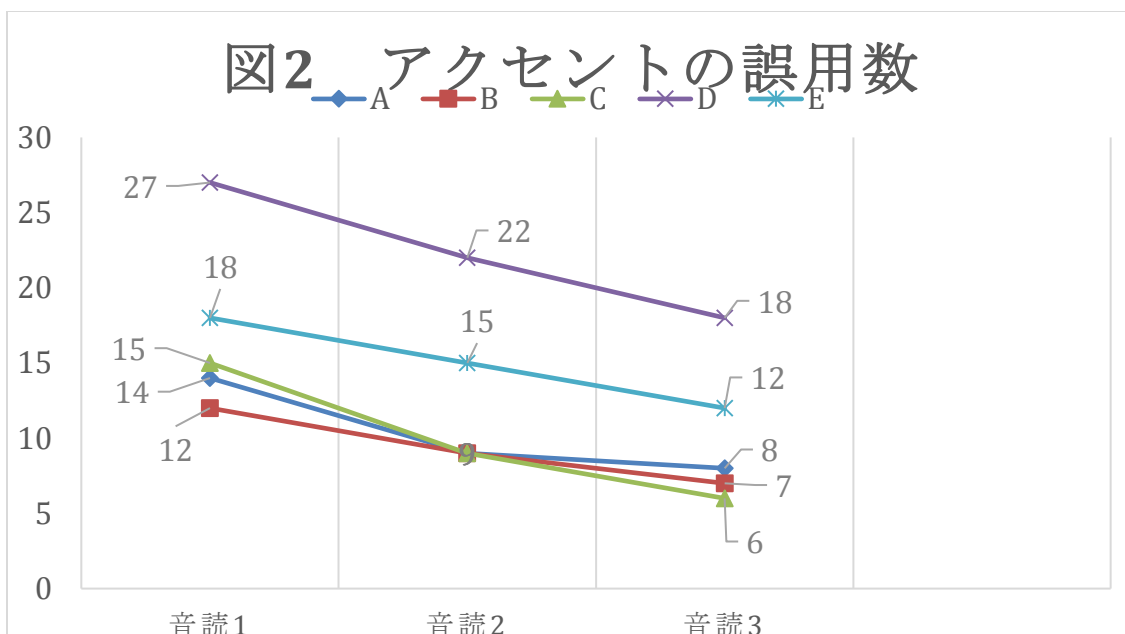
2.2.1 アクセントの誤用数の変化からみる影響

音読 1~3 における学習者 A、B、C、D、E の誤用数及び音読 1-2 の減った割合、音読 2-3 の減った割合、音読 1-3 の減った割合を表 1 にまとめた。図 2 は表 1 を図にするものである。表 1 と図 2 からつぎの 3 つがわかる。

- シャドーイングはアクセントの矯正に有効。これは萩原 (2005) の研究結果と一致している。
- 音読 1-3 の誤用の減った割合においては、学習者 C の割合が一番高く、E と D の割合がもっとも低いことがわかる。シャドーイングをする前後、学習者 C のみ誤用が半分以上直った。
- 学習者 A、B、C の音読 1-2 の誤用の減った割合が音読 2-3 より高かったのに対して、学習者 D、E は音読 2-3 のほうが高かった。実施手順をみるとわかるように、音読 2-3 の間では、学習者に音読を聞かせ、間違えた気づいたものを書いてもらい、教師の指導を行った。発音の間違いを気づかせるための行動は学習者 A、B、C にとって、学習者 D、E ほど効果がなかったことが窺える。

表 1 アクセントの誤用数及び減った割合

	音読 1 誤用数	音読 2 誤用数	音読 3 誤用数	音読 1-2 減った 割合 (小数点第二 位以下四捨五入)	音読 2- 3 減った 割合	音読 1- 3 減った 割合
A	14	9	8	35.7%	11.1%	42.9%
B	12	9	7	25.0%	22.2%	41.7%
C	15	9	6	40.0%	33.3%	60.0%
D	27	22	18	18.5%	18.9%	33.3%
E	18	15	12	16.7%	20.0%	33.3%



2.2.2 音読でよく間違えたアクセント及びそのパターン

表3は学習者が音読でよく間違えたアクセントである。

図3 音読でよく間違えたアクセント

モデル音声	学習者の音読	モデル音声	学習者の音読
たいした	→たいした、たいした	メールアドレス	→メールアドレス、メールアドレス
結婚すると	→結婚すると	メールアドレス	メールアドレス
なくなる	→なくなる、なくなる	にしんじゅく (西新宿)	→にしんじゅく
そうとも	→そうとも	行ってみたら	→行ってみたら
限らない	→限らない	ながもち (長持ち)	→ながもち、ながもち
変えた	→変えた	てつぎ (手続き)	→てつぎ
きのう (機能)	→きのう	今ごろ	→いまごろ、いまごろ、いまごろ
りょうきん (料金)	→りょうきん	かえって (帰って)	→かえって、かえって
ばんごう (番号)	→ばんごう	わからない	→わからない

学習者が音読でよく間違えたアクセントをまとめてみると、次の5つのパターンになる。

- ① 動詞の未然形（－ない）
- ② 動詞の過去形と連用形
- ③ 複合名詞が二つの山になる。→中国語の影響
- ④ 頭高型と中高型の名詞が平板型になってしまう。
- ⑤ その他（たいした、そうとも、行ってみたらなど）

尤（2002）によると、①~③は中国人学習者がよく間違えるアクセントパターンであるという。複合名詞が二つの山になるという点においては、母語の負の転移が見られた。

2.3 シャドーイング自己モニターに有効か

表 2~6 の学習者のシャドーイング、音読時の気付きからつぎのことが窺える。

- 学習者 A はアクセントが間違っていることを自己意識しているが、正しく発音できない。
- 学習者 B はアクセントが間違っていることを意識しているが、妥当な発音基準がわからないため、正しい発音が出来なかった。
- 「たいした」「かわらない」について、学習者 C はまだ完全に自己モニターできていないことが推測できる。
- 学習者 D は「よく」「くに」「わからない」などのアクセントの自己モニターができていることが窺える。また、「線を引いてあげたところを注意しながら、シャドーイングをした」というところから教師の指導は有効であることが窺える。
- 学習者 E のアクセントにおける自己意識が見られなかった。

表 2 学習者 A の気付き

	音読 1	音読 2	音読 3	学習者の気付き
A	/	/	/	①複合語と平板型の単語のアクセントが難しかった。 ②「今ごろ」の発音がわかるが、読むと、違う発音になる。

表 3 学習者 B の気付き

	音読 1	音読 2	音読 3	学習者の気付き
B	一回目：カメ ラ屋 二回目：カメ ラ屋	一回目： ¹ 帰 って 二回目：帰 って	/	学習者 B に聞いて見ると、カメラ屋と発音して、発音がおかしいことに気づき、もう一度発音したが、同じものに発音してしまったようだ。「帰って」は同上。

表 4 学習者 C の気付き

	音読 1	音読 2	音読 3	学習者の気付き
C	/	会話 1： たいした 会話 2： たいした	会話 1： たいした 会話 2： たいした	① 学習者 C の話では、会話 1 も「たいした」と発音したかったが、「たいした」になってしまったようだ。 ② 「分からない」は「ら」から下がるとわかりつつ、「分からない」と発音してしまうときがあると筆者が気づいた。

表 5 学習者 D の気付き

	音読 1	音読 2	音読 3	学習者の気付き
D	一回目：くに (国) 二回目：くに	一回目：よく 二回目：よく	一回目：くに、 わからない 二回目：くに、 わからない	① 音読 1 では、自信がないから、2 回読んだ。 ② 音読 2、3 は間違っているのに気づいたから、もう一度読んだ。特に、線を引いて下さったものに注意しながら、シャドーイングの練習をした。

表 6 学習者 E の気付き

¹ 平板型のアクセントは記号「¹」で表示できないため、「¹」を振らないようにする。

	音読 1	音読 2	音読 3	学習者の気付き
E	/	/	/	①文が長くなると、アクセントなどがコントロールできなくなる ② 音読の時、モデル音声を忘れてしまう。

3. 結論

今回の研究を通して、シャドーイングはアクセントの矯正に有効であることがわかる。また、学習者によっては、シャドーイングは自己モニター能力の養成に一定の効果があるが、顕著な効果は見られなかった。今後の課題は次のようである。

- シャドーイングがイントネーションや単音などにおける効果（自己モニター）について分析する。
- シャドーイングとリピーティングを併せて、再び実験をする。
- 自己モニター能力が養成できた場合、学習者の自信付けに有効かどうかについて、今回のデータと次回の実験で得るデータを併せて分析する。

参考文献

- 磯村一弘 (2009) 『日本語教授法シリーズ 2 音声を教える』 ひつじ書房
- 小河原義朗 (1997) 「ガイコクジン日本語学習者の発音学習における自己評価」『教育心理学研究』 第 45 巻 4 号,pp.438-448
- 小河原義朗 (1998) 「日本語学習における発音学習ストラテジーの有効性の検討」『言語科学論集』 第 2 号,pp.1-12
- 小河原義朗 (2009) 「音声教育のための授業研究—発音指導場面における教室談話の分析—」『日本語教育』 第 142 号,pp.36-46
- 河野俊之 (2014) 『音声教育の実践』 くろしお出版
- 高橋恵利子・松崎寛 (2007) 「プロソディシャドーイングが日本語学習者の発音に与える影響」『広島大学日本語教育研究』 第 17 号,pp.73-80
- 高橋恵利子・福田規子・岩下真澄・迫田久美子 (2010) 「上級レベル学習者に対するシャドーイングの研究—学習者の気付きと教師の支援」『広島大学大学院教育学研究科紀要』 第 59 号,pp.299-308
- 鈴木義昭 (1984) 「中国語と日本語教育」『日本語教育』 第 55 号,pp.59-69
- スイリポンパイブーン・ユパカー (2008) 「日本語アクセントの学習における自己モニターの有効性—タイ語母語話者に対するアンケートの分析から—」『音声研究』 12(2),pp.17-29
- 玉井健 (2005) 『リスニング指導法としてのシャドーイングの効果に関する研究』 風間書房
- 萩原廣 (2005) 「シャドーイングの日本語音声教育における有効性—単音、アクセント指導を中心に—」『國文學論叢』 第 52 輯,pp.112-126